

第2回 旧島松駅通所整備検討委員会

日時	令和5年12月22日(金) 16:00～
会場	広葉交流センター2階 研修室/史跡旧島松駅通所(北広島市島松1番地)
出席委員	委員長:角 幸博 副委員長:藤井 浩 委員:平井 卓郎、森 朋子、圓谷 昂史、細川 健裕 鹿内 洋一
オブザーバー	文化庁 文化資源活用課 整備部門 文化財調査官 市原 富士夫 北海道教育庁生涯学習推進局 文化財・博物館課 専門主任:内田 和典
市出席者	北広島市企画財政部企画課長:下野 直章 北広島市建設部都市整備課長:藤本 悟 北広島市建設部建築課長:瀬田松 秀一 北広島市建設部建築課 主査:真田 朋幸、主任:田中 大樹、 技師:石川 葉佑香
事務局	エコミュージアムセンター センター長:渡邊 篤広 主査:畠 誠(学芸員) 主任:黒田 弘子(任期付き学芸員) 主事:吉村 くるみ(学芸員)
委託業者	北電総合設計株式会社
会議次第	1. 開 会 2. 委員長挨拶 3. 第1回委員会における検討事項 4. 議事 史跡旧島松駅通所耐震補強・保存修理実施設計について ・展示計画、サイン計画(案)について ・耐震補強・保存修理実施設計について 5. その他 6. 閉 会

1 開会

2 委員長挨拶

角委員長よりあいさつ

3 第1回委員会における検討事項

議事録から

4 議事

史跡旧島松駅通所耐震補強・保存修理実施設計について

- ・展示計画、サイン計画(案)について
- ・耐震補強・保存修理実施設計について

第2回 旧島松駅通所整備検討委員会

【展示計画・サイン計画(案)について】

(事務局より展示計画・サイン計画について説明)

委員

- ・ 設置物の素材や色等、全体として統一感をもつほうが良いと思われるが、その点はどのように考えているか。

事務局

- ・ 木材で作る部分も考えているが、既存部分と合わせて見ると統一感が中途半端になる部分もあるため、黒く塗装したスチールをベースに木材と使い分けていくことを考えている。

委員

- ・ 建設当時がないものを設置することになるため、既存のものと新設のものとの差別化を図っていくことが重要である。シンプルにやるべきであると考え。
- ・ 全体的に筋を通してやってほしい。

事務局

- ・ 存在感を消したい部分に関しては黒で統一するなど、可能な限りちぐはぐにならないように努めたい。

委員

- ・ モニターの土台等、壊れた際に取替ることができるように計画されているか。

事務局

- ・ 取替ることのできる設置方法で考えている。

委員

- ・ 赤毛米が北海道遺産として選定されているが、その点についてはどのように活用していくと考えているか。

事務局

- ・ 展示ケースにて、赤毛米の稲を4種展示する予定である。

委員

- ・ 北海道遺産に選定されているということが重要であるため、そのことがわかるような展示があったほうが良い。

第2回 旧島松駅通所整備検討委員会

委員

- ・ デイスプレイの音量が大きいと、展示に集中できないことが懸念されるが、音量は自由に設定できるのか。

事務局

- ・ 自由に設定可能である。
- ・ どのくらいの音声ということは明確には決まっていないが、基本的には文字表記による解説になると考えており、周りに影響のない音量にするべきであると考えている。

委員

- ・ 小屋裏の360度カメラの映像内に文字で説明を入れることは可能か。

事務局

- ・ 360度カメラの映像内にデジタルで文字を入れることは難しいと考えられる。
- ・ アナログ的な方法ではあるが、文字の入ったパネルを設置した状態で撮影することを考えている。この点に関しては、今後も検討していきたい。

【耐震補強・保存修理実施設計概要について】

(事務局より耐震補強・保存修理実施設計概要について説明)

委員

- ・ 保存修理整備について、材の取替のほかに、部分的に補強を行うということはあるか。

事務局

- ・ 補強に関しては、梁の接合部等の一部取替の難しい部分は、金物での補強を計画している。

委員

- ・ 土台等の腐朽に関しては、冬季に雪に埋もれることが影響していると考えられる。
- ・ 合板を立てて空間を作る等、改修工事後にあまりコストをかけず、問題が発生しそうな部分に対して対処していくことが良いと考えられる。
- ・ 壁の改修後断面図において、既存の縦板の内側に構造用合板を埋め込むような計画に見えるが、内部の状況は確認したか。

事務局

- ・ 部分的に仕上げ材を剥がし、内部の状況を確認している。

委員

- ・ 構造用合板に9mmと12mmがあるが、どのような使い分けをしているのか。

第2回 旧島松駅通所整備検討委員会

事務局

- ・ 耐久性の観点から、屋外側を12mm、屋内側を9mmと設定している。

委員

- ・ 北海道で一般的に使われる材では、9mmと12mmで板の構造に差異がある。時間的に余裕があれば、合板の詳細を検討し更に進めていくとよいと考えられる。
- ・ 屋根に関しては、桎葺では水が入りやすいが抜けやすいものの、ここに合板が入ると水が抜けにくくなることが懸念される。
- ・ 水はけのために合板の上に通気層を設ける計画となっていると思われるが、何か参考となるような事例等はあったか。

事務局

- ・ 具体的な事例を見つけることが難しい。

委員

- ・ 水の抜け方は重要であると思われるため、ぎりぎりまで、通気層がどの程度の厚さ必要か、検討していく必要がある。

委員

- ・ 屋根においては、どのような釘を用いるのか。

事務局

- ・ 竹釘は難しいと考えており、鉄くぎかステンレス釘を考えている。
- ・ ステンレス釘は錆びないため、木材が収縮した際に抜けやすくなることが懸念される。対して、鉄くぎは錆びるため、錆により抜けにくくなると思われるが、錆びると強度的な問題が生じる。
- ・ 現段階では鉄くぎを使用することを考えている。

委員

- ・ 観覧者から釘が見えてしまうことはないか。

事務局

- ・ 桎材が3層程度あり、野地板も張る計画のため、あまり釘が見えるということはないと考えられる。

委員

- ・ 現在ではあまり見られないが、過去には、特別な形状の釘もあった。そういった通常のものとは違う釘を使用する可能性も検討するとよいのではないか。

第2回 旧島松駅通所整備検討委員会

委員

- ・ 縁側の部分で、縁側から天井を見ると柱材がそのまま見える構造になっているが、そのような構造にしている理由は何か。

事務局

- ・ 構造用合板をそのまま入れるだけでは、構造用合板が見えてしまうため、小屋組み表し部分は従来通りの見え方にするために柱葺を構造用合板の下に新設することとした。

委員

- ・ 構造用合板と通気層で合わせて 24 mmあるが、その分だけ高くなるという認識でよろしいか。24 mmの差があると、目立つように思われる。

事務局

- ・ 軒先部分の写真からわかるように、軒先に水切り銅板があるが、この寸法を調整することで目立たないようにすることを考えている。

委員

- ・ 一般的にやろうとすると、鉄筋ブレースが並ぶことになる。多少印象も変わるが、それを良しとするか、今回の案を取るべきか、どちらが相対的に良いかということで判断するべきだと考える。

委員

- ・ 考え方を次も生かせるように、今回はこういった理由でベストであろうという判断であったということを記録として残しておけばよいのではないかと考える。

オブザーバー

- ・ 費用の問題で、短期間でやろうとすると費用が足りなくなることが懸念されるため、工期を何期かに分けることも考えられるが、どちらの方がスムーズに進められるか検討する必要がある。

委員

- ・ ゾーンごとに分けて進める可能性はあるか。

事務局

- ・ あまり細かい分け方はできないと考えられるが、例を挙げると、道路側と山側で工区を分けて施工する方法や屋根は合板の後にアスファルトルーフィングを新設するが、そこまでを一期、柱葺の部分二期といったように分けることも可能である。

第2回 旧島松駅通所整備検討委員会

オブザーバー

- ・ 細かく分けることができるのであれば、そのようなことも含めて検討し、難しければ全体でということもお話しさせていただければと考えている。

委員

- ・ 屋根に関しては、厚さが変わるということであったが、建物に関して高さは変わらないという認識でよろしいか。

事務局

- ・ 建物の最高部である棟木の位置は変わらない。

委員長

- ・ 資料3の4Pでコンセントの位置が記されているが、既存のコンセントについては記されていないということによろしいか。

事務局

- ・ そのとおりである。既存のコンセントについては、図3-2内の緑の丸で記されている、既存電灯の周辺にある。

委員

- ・ 資料3の、板戸の劣化や戸袋の劣化の部分について、保存修理を実施するとあるが、これは具体的にどういったことを行うのか。

事務局

- ・ 既存の材を一度取り外し、反っているものは歪みを直し、割れているものは新規材に取替る。

委員

- ・ 極力既存材を活用する方針であると理解した。
- ・ 資料3の4Pを見ると、炎感知器の位置が追加資料2の設置イメージのそれと異なっているように思えるが、これはあくまでイメージということか。

事務局

- ・ 図面では、壁から何m離れた位置でという風に設定している。追加資料では、厳密に測ったうえで記しているものではなく、あくまでイメージである。炎感知器については、実際に工事の際に現地で位置を調整することとなる。

第2回 旧島松駅通所整備検討委員会

委員

- ・ 道路側の炎感知器ポールの本数は2本で決定か。

事務局

- ・ 火災を防ぐためには、最低でも2本は必要である。

委員

- ・ 左側の既存の電柱がある側はあまり目立たないかもしれないが、右側は独立して建つこととなり目立つように思う。見え方にも配慮して位置を決定するべきであると考える。

委員長

- ・ 写真に写りこまないようにという話は以前から出ていた。この点に関しては、厳密にシミュレーションを行い、位置を決定していく必要がある。

【その他】

委員長

- ・ 来年3月にこの委員会が解散となるが、その方向性について事務局の方から説明願いたい。

事務局

- ・ 来年度から駅通所の工事を行っていく。工事終了後には、駅通所外での取り組みを進めていく予定である。
- ・ 全面的な修理が必要であると考えられるが、工事費用がどの程度確保できるか分からず、工期においても2年となるのか、3年、4年となるのかも分からないため、これらの部分を検討していく必要がある。
- ・ 次回の第3回委員会をもって実施設計段階を終わらせたいが、どのような方針で進めていくかを検討していきたいと思っている。
- ・ 第3回の日程については、現在は2月16日を予定している。日程等が決まり次第、連絡させていただきたい。

オブザーバー

- ・ 素屋根の部分が史跡指定地に入っているため、単管を打ち込む場合は発掘調査や埋設物の調査が必要になる。本当にこれができるのかどうか検討が必要である。

【閉会】

以上